

文教厚生委員会 行政視察報告書

1. 実施日 令和 5年 8月 4日 (金)

2. 視察地及び視察テーマ

東京都三鷹市

「コミュニティ・スクールに関する取組みについて」

3. 視察者 文教厚生委員会 委員長：大塚あかね

副委員長：浜中 順

委員：金子ひとみ、菅 勇真、石居尚郎、門間淑子

4. 視察報告

東京都三鷹市 「コミュニティ・スクールについて」

視察日時	令和 5年 8月 4日 (金) 午後 1時30分～3時
視察先	三鷹市 教育部 教育政策推進室 視察先担当者職氏名 室長 越 政樹 氏
【三鷹市の概要】 <ul style="list-style-type: none">・人口：190,173人（令和5年4月1日現在）・面積：16.2平方キロメートル・概要説明：<ul style="list-style-type: none">・地勢 三鷹市は、都心から西へ約18キロメートル、東京都のほぼ中央に位置し、東は杉並区、世田谷区の2区に、西は小金井市、南は調布市、北は武蔵野市にそれぞれ接している。・沿革 昭和25年市制施行・一般会計予算規模 77,843,099,000円（令和5年度当初予算額）・市の特徴 市内には国立天文台、ジブリ美術館、山本有三記念館など有名なスポットがある。自治意識が高く、市民活動も活発に行われている。・特色ある施策 昭和48年公共下水道普及率100%を日本初に達成している	

【視察目的】

- ・三鷹市のコミュニティ・スクールを視察しようと考えた経緯・理由

羽村市教育委員会では、コミュニティ・スクールの検討を始めており、本年度より小学校1校、中学校1校が導入され、来年度は全小中学校で導入していく計画で、現在準備を進めているところである。

ところが、児童・生徒の保護者や地域の方に聞いても、「コミュニティ・スクール」という言葉は一般的にまだ馴染みのない言葉であり、羽村市教育委員会の公式サイトでの説明を読んでも解りづらいとのことであった。どんなに立派な施策でも協働していく人達に受け入れられてもらわなければ、良い結果は生まれない。そのため、先進地での視察を企画した。

三鷹市は、早くからコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を開始し、実績を挙げてきた。羽村市も長年にわたり小・中一貫教育を進めてきており、それに加えてコミュニティ・スクールを本格的に推進していくことになっている。

そこで、小・中一貫教育とコミュニティ・スクールという共通の課題について学び、羽村市での新たな取り組みが円滑なスタートに寄与できることを目的に視察を決定した。

【視察概要（内容）】

- ・視察の内容：三鷹市役所を訪ね、担当者から説明を聞き、質疑を行った
- ・担当者からの説明の内容

- 1 三鷹市では自治基本条例を制定しており、そこには、保護者、地域住民等の学校運営への参加を進めることにより、地域の力を活かし、創意工夫と特色ある学校づくりと、学校を核としたコミュニティづくりの推進が謳われている。
- 2 自治基本条例の理念を基に、教育ビジョンを示しており、そこには地域とともに、協働する教育の推進として、コミュニティ・スクールの充実・発展が述べられている。
- 3 小学校15校、中学校7校を小・中一貫教育として7つの学園を創設している。そこでは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を進めている。
- 4 各学園では、学校・家庭・地域がそれぞれ責任と権限をもち、当事者として「ともに」手を携え、地域の子どものための教育にあたるシステムとして、コミュニティ・スクール委員会を設置。そこでは、学校運営への参画と教育活動への参画の2つ面から機能している。

全体会は年1回程度、部会は「支援部」「広報部」「評価部」が月1～2回程度開催している。

- ・主な質疑応答

●地域やPTA、学校長、教員へどのようにアプローチを行ったか。

○⇒教育委員会が伴走支援として、ハンドブックの作成などの広報や研修会を実施した。またコミュニティ・スクール委員会にも同席等をしている。また、「マンガでわかる みたかの教育」というチラシを作成して保護者や地域に展開して理解を広げているとのことであった。

【所感】

視察の最大の目的は、協働して学校運営していく地域の方や保護者の方に、どのようにすればコミュニティ・スクールの取り組みを理解してもらい、どのようにすれば「ともに」子供たちのために喜んで取り組んでいってもらえるかを見出すことにあった。

三鷹市の教育委員会ではスタートにあたり、準備委員会などの会合を設け、学校を支えている地域の方や保護者に対して、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の取り組みについて熱意を持って何度も何度も語っていった。この地道な活動が、教育委員会が、子どもたちのために教育を変えていこうとしている姿勢が市民や関係者に徐々に伝わっていったとの印象を持った。

また一方で、教育委員会は、校長をはじめとして学校関係者に対して繰り返し何のためにコミュニティ・スクールを推進するのかを説明している。これは、各学校でコミュニティ・スクールを展開していくには、学校自らが、保護者や地域の方にコミュニティ・スクールのことを伝え、相互理解を進めていくことが欠かせないと考えたことによる。このように、コミュニティ・スクール開始にあたり、教育委員会が、また教育長が先頭に立って、保護者をはじめ市民に対して、丁寧に説明会を繰り返し開催してコミュニティ・スクールの主旨を伝えていったことが、後々の運営に良い方向に働いていったものと推察できた。

三鷹市では、各学校でコミュニティ・スクールを進めていく上で、コミュニティ・スクール委員会を設置した。構成員は、学校、保護者、同窓会、地域協力者、学識経験者、住民協議会、地域健全育成団体、民生児童委員や保護司、おやじの会の代表等である。委員は校長が推薦して教育委員会が任命している。この委員会の開催に向けた工夫の一つとして、参加者の負担が少しでも軽減できるよう、地域住民や共働きしている保護者にも配慮して、出来る限り参加しやすい夜に委員会を開いている。教師の働き方改革にも配慮して、学校からは校長・副校長など責任者のみが出席していた。また、土曜日に開催される学校公開の時にも、時を逃さず保護者との意見交換を怠らなかった。各種の団体との交流・意見交換を実施していく中で、我が学校をチーム学校として支えていこうとするネットワークが出来上がっていったように思う。

羽村市でも本年10月下旬にコミュニティ・スクール研修会が開催された。このような市民に理解を得るための取り組みを、教育委員会としても、各学校としても丁寧に積み重ねていてもらいたい。また、コミュニティ・スクールの取り組みを説明していく際に、難しい言葉で伝えるのではなく、解りやすく、共感の輪が広がっていくよう努めてもらいたい。

文教厚生委員会としても、今後の教育委員会や学校の取り組みを注視していく。

添付資料



パワーポイントを使用して解説をする教育政策推進室室長の越正樹（こしまさき）氏



三鷹市からの視察資料



解説して頂いた越室長を中心に厚生文教委員会の委員との集合写真

左から石居委員、金子委員、浜中副委員長、越室長、大塚委員長、門間委員、菅委員